

## 近畿福祉大学 テクノエイドみらい館

〒679-2217  
兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5  
TEL 0790-22-2620(代表)  
<http://www.kinwu.ac.jp/>



### 当館のコンセプト

**教育の場として**、学生たちが体験を通して学び  
**伝達の場として**、ユーザーや専門職が福祉用具の活用法を研修し  
**交流の場として**、使い手、つくり手そして売り手が意見を交換し  
**工夫の場として**、身体や能力に合わせて機器を調節、改良し  
**探求の場として**、将来の福祉産業の可能性を考える  
ことを目的とした、福祉用具の展示と情報提供ができる地域に開かれた  
研究・研修機関を目指しています。

### みらい館は…

これからのテクノエイドの機器のあり方を提案する目的で開設された、新しいスタイルの展示と体験、そして研修と交流の場です。

1階総面積：630㎡  
開館日及び時間：毎週 火・木曜日 9時～17時  
毎週 土曜日 9時～12時

### テクノエイドとは…

ハンディキャップを持った人々が生活してゆく上での不便を解消し、自立を支援してゆく福祉機器・用具のことです。生活の質の向上、ライフスタイルの多様化を背景にして、この技術は今、大きく発展しつつあります。

「生活」「楽しむ」「健康」をテーマに、みらいのテクノエイドのあり方を発信していきます。

### 生活 ADL

生活のバリアフリー化をテーマに、住環境、移動機器、コミュニケーション機器のコーナーを設けています。バリアフリー化された家庭空間、街の路面を再現した車いすの試乗コースなど、体験を通じて私たちの身の廻りのバリア(生活の障壁)と、それを除く工夫について学べるようになっていきます。



### 楽しむ entertainment

「ともに楽しむ」をテーマに、ユニバーサルデザインの遊具を展示するとともに、遊具を使って遊ぶコーナーも設けています。ハンディキャップを持った子どもたちや高齢者の方も一緒に遊べる共遊玩具を通して、ユニバーサルデザインの考え方を学ぶことができます。



### 健康 wellness

心と体の健康をテーマに、健康・体力のチェックのコーナー、リラクゼーションのコーナーを設けています。福祉の原点は「心身ともに健康で幸福な生活を送ること」。日々の健康維持について理解を深めるコーナーです。



### アクセス方法

- お車** …中国自動車道 福崎ICから約10分
- 電車** …播但線「福崎駅」からスクールバス5分

## ■支援技術の普及を目的

テクノエイドみらい館は左記のような、5つのコンセプトに基づいて、支援技術の普及を主な目的として設立されました。ガラス張りの建物内は、明るく広々とした空間となっており、そこにさまざまな福祉用具が展示されています。展示方法も円形構造を活かし、健康支援、生活支援、情報検索、新製品紹介などのゾーン区分され、生活・健康・楽しむ、という日常生活のさまざまな場面をイメージできるような展示となっており、展示品目数を抑え、見やすく福祉用具が並べられています。

見学する展示場としての役割だけではなく、実際に福祉機器を手にとって学ぶことができ、ADLを意識した日常生活レベルでの支援技術を体験、福祉機器を使用した作業や介護のシミュレーションが体験できる空間を実現しています。

屋外には車いすの体験・試乗コースがあり、平坦な道から砂利道、ブロック舗装や勾配などを意図的に施された『バリアフル』なコースが設置され、実際の道路状況を想定した体験ができるように工夫されています。

展示機器の約8割は民間企業から貸し出されたもので、新製品の提供もいち速く行われています。また、さまざまな意見を企業にフィードバックすることによって、利用しやすいより良い製品に反映され、情報交換の場所としても機能しています。県内の地場産業を中心にしたコーナーも設けられ福祉用具やユニバーサルデザイン製品の開発を通じ地域産業の活性化にも取り組んでいます。



## ■教育と研究の場

在学中の学生はゼミや研修の場として具体的に、また実践的に福祉機器や福祉産業について学んでいます。また、中央部の交流ゾーンと呼ばれるオープンスペースを利用して、ヘルパー研修や福祉用具専門相談員の研修、車いすや移乗などをテーマにした市民講座も開催し、開かれた教育・研究の場として活用されています。

テクノエイドみらい館は、誰もが気軽に利用できる利用できるスペースとして一般の方にも開放する一方、毎年2~3回程度、車いす、コミュニケーション、姿勢、そして「あそび」などのテーマを取り上げた研究会が開かれます。テーマに即した専門家や企業と連携を図り、関西全域からセラピスト、養護学校職員、施設関係者などが参加し、支援技術の普及を目的としたネットワークの構築も定着化しつつあります。

隣接された工房は福祉用具に興味をもつ学生たちの自主的なサークル「テクノエイド研究会」の拠点となっており、福祉用具創作の場となっています。ここでの作品は展示会やイベント出展、福祉施設への寄贈などを通じて新しい用具の提案も生まれています。

福祉大学の中のテクノエイドセンターである「みらい館」は、大学の一施設にとどまらず、地域に密着した活動をこれからも継続し、福祉に携わるさまざまな方が出会い、意見やアイデアを交換しあえる支援技術の拠点を目指しています。

